

## 資料4：本多家家格回復問題と武生騒動の経過

明治2年6月17日(1869年7月25日) 版籍奉還。

- 11月25日(12月27日) 福井藩、本多副元の府中支配を免じて士族とする(家中の主だった者以外は卒)。
- 11月26日(12月28日) 本多副元、福井藩へ家格回復を朝廷に伝えるよう歎願。翌日家臣一統も歎願。
- 11月27日(12月29日) 本多副元、旧家臣に直書し、永の奉公を感謝し別れをする。
- 11月28日(12月30日) 旧家臣一統盟約をなし、子孫に至るまで本多家への忠節を誓う。
- 12月5日(1870年1月6日) 旧家臣・高木太郎八と山崎長海が新政府歎願のため上京。
- 12月 本多家家臣渡辺洪基(外務省)新政府に本多家家格回復を嘆願。

明治3年1月21日(2月21日) 府中町民代表が新政府に本多家府中支配回復歎願のため上京。

- 2月7日(3月8日) 旧家老松本晚翠、大隈重信宛本多家家格回復斡旋依頼書を書く(関龍二仲介)。
- 4月2日(5月2日) 旧家臣総代・平野衛士・高木嘉門・井上脩三、前藩主春嶽家扶大宮藤馬へ歎願するも歎願書は拒絶される。
- 4月8日(5月8日) 松本晚翠・土生多忠・忠見伝三上京。岩倉・東久世に家格回復を斡旋。
- 5月14日(6月12日) 旧家臣49名、家格回復歎願書を大宮藤馬に出す。歎願書受領。
- 5月21日(6月19日) 佐久間直・佃貢・竹内円、福井軍務寮に呼び出され強願と詰問される。
- 5月22日(6月20日) 3名福井政堂にて即入牢と脅されて、歎願書を受け取り府中に戻る。
- 5月25日(6月23日) 福井藩、本多家旧臣49名に謹慎を申し渡す。
- 5月 松本晚翠、岩倉具視に本多家家格回復仲介の依頼書を書く。
- 6月1日(6月29日) 旧家臣一統は、前藩主春嶽家令に本多家家格回復への助力を歎願。
- 6月18日(7月16日) 新政府民部省の「歎願継続なら捕縛して福井藩へ引き渡す」との方針を受けて、本多家東京留守居栗塚三八が上京した町民代表を集めて帰郷を説諭。
- 6月21日(7月19日) 松本晚翠、家格回復のために北海道開拓を計画し、北海道に渡る。
- 7月 福井藩、帰郷した府中町民14・5人を捕縛入牢の上尋問。  
府中町総代・府中11ヶ寺総代、本多家府中支配復活を民部省に歎願。
- 7月13日(8月9日) 代表捕縛に抗議し府中町家戸を閉めて抗議(⇒18日本多副元の説得で解除)
- 7月18日(8月14日) 民部省、府中町総代・寺総代6名を捕縛し福井藩に引き渡す。
- 7月24日(8月20日) 福井藩民政寮、反対者取締りのため府中に民政寮武生出張所を開設。
- 8月5日(8月31日) 護送される6人を伴う福井藩役人今庄着(翌朝多数の府中代表取り囲む)。
- 8月7日(9月2日) 密かに福井へ向かう一行が住民に阻止され府中室町の旅館當仁屋に逃げ込む(群集が取り囲む・総代6名を府中留め置きを歎願・福井藩拒否、福井から200余名の軍隊到着、出張所前で騒いだ数名が逮捕されたことをきっかけにして群衆が役所になだれ込み破壊⇒福井藩愾意の町家14軒破壊)【武生騒動】
- 8月8日(9月3日～ 府中周辺に番所を設置して出入を差し止め、関係者捕縛⇒福井へ護送(旧家臣町役23人、町民91人、村人33人など)～19日。
- 8月15日(9月10日) 本多副元に福井への転居命令。
- 8月20日(9月15日) 福井藩、騒動は本多家旧家臣が煽動したものと新政府に報告。
- 8月22日(9月17日) 旧家臣49名の謹慎解除。旧家臣の福井転居命令。
- 9月 東京の高木太郎八・山崎長海・栗塚三八・渡辺洪基、北海道の松本晚翠も捕縛され福井に入牢。脱藩して新政府に通報した高木才四郎・薬師寺宇一・平野権九郎も捕縛され福井に入牢。
- 9月27日(10月21日) 太政官、本多副元の華族昇格却下を通達。
- 閏10月10日(12月2日) 福井の牢で竹内円獄死
- 11月5日(12月26日) 大雲蘭溪も獄死。町民11人も獄死。

明治4年2月14日(1871年4月3日) 騒動首謀の罪で米屋(堀江)庄八斬首。火付けの罪で箒屋末吉斬首。  
2月28日(4月17日) 本多副元に対して太政官が東京貫属を命じる。  
7月14日(8月29日) 廢藩置県  
12月16日(1872年1月25日) 旧本多家家中の武生帰参が許される。  
12月27日(2月5日) 本多副元、東京に移住。

1874(明治7)年10月 竹内円・大雲蘭溪の追哀碑建立(松本晚翠・齋藤修一郎)。

1877(明治10)年12月 本多副元、武生騒動犠牲者15人を悼む「成人碑」建立。

1879(明治12)年1月25日 本多副元、華族に列す。1884(明治17)年7月8日。本多副元、男爵受爵。